



テーマ 高校生の卒業論文－立教女学院の場合（要旨）

高橋 育子

立教女学院中学校・高等学校
教諭（国語科） ARE 学習主任

近年、知識詰め込み型学習ではなく、アクティブ・ラーニングに代表される、自ら調べ、探究するスタイルの学習形態が注目を集めている。

立教女学院では、「ASK」＝課題設定力「RESEACH」＝調査研究力「EXPRESS」＝表現発表力の獲得を目指す ARE 学習を設置し、6年間を通じた学びの最終形態として、卒業論文を執筆している。

中学校 ARE 学習

中学校段階では、興味関心を広げるよう、文系理系様々な分野を広く学んでいる。

調査をもとに議論を深め、それを発表する、ということ中学校一年時から段階的に繰り返し、「思考力」の土台を培う。

調査にあたっては、研究計画書を作成し、仮説を立て、分類・整理をし、因果関係などを考慮した上で臨んでいる。図書・新聞・インターネットなど様々な手段で情報収集するだけでなく、実際に野外観察・現地訪問・博物館見学や当事者・専門家へのインタビューなども行う。

高等学校 ARE 学習

中学校3年間で培った「課題設定力」「調査研究力」「表現発表力」を卒業論文という形で体現する。実際の卒業論文執筆は、高校3年の約一年間で集中して書き上げる。

3年次には、週2時間の選択科目「ARE」の授業を設け、毎年100～120名が履修、半数以上の生徒が原稿用紙100枚以上を執筆する。

テーマ設定の重要性

論文指導では特に「課題設定力」を重視する。テーマを探究することは「何を知りたいのか」「それをどう考えるか」を通して、自分の再発見や深化に繋がる（本文 P3 参照）。

協働性を培う

テーマを生徒間で情報共有し合う、ディスカッションを重ねるなど、自分以外の視点からの学びや協働性は、自分の世界を広げる上で欠かせない。

文章による論文、PowerPoint を用いたプレゼンテーションという二形態で行う発表は、聴き手側にとっても、発表を聴く力、コメントを書く力を養う良い機会となる。

多彩なジャンルに対する知見を深め、知的好奇心を一層広げ、双方向性も生まれる。

一つの物事に膨大な背景や脈絡があることを自分自身の論文執筆を通して身をもって知っ

た生徒たちは、他者のテーマの裏側にも同様の積み重ねがあることを理解し、自分の世界を大きく開いていく。

論文執筆を通して

執筆の終盤には、どの生徒も皆知ることの楽しさに目を輝かせている。

「論文」として完成させたことに、達成感だけでなく、自己に対する自信になっていく。

「小学生のときから、与えられた知識をただ覚え、与えられた問いに答え、学問を『させられている』と感じていました。今回の論文は、ずっと持ち続けてきた疑問に対して答えを自分で見出すことができた良い体験でした。」

「私の論文には震災や原発の情報が必要だった。2011年以降震災や原発に関する講演が続いていた、土曜集会の存在は非常に大きかった。土曜集会が面倒だと思っていたけれど、その面倒な積み重ねが最後に論文という形で生かしたことは嬉しい。日本史や現代社会で学んだ知識も論文を執筆するにあたり必要だった。」

「夢中になって論文に打ち込み、書き上げた体験が大きな自信となり、その後の人生においても、厳しい環境でも逃げ出さずにしっかりと向き合うことに繋がった。あえて難しい道をも選択できるようになった。」

優秀論文を掲載した卒業論文集は、年度末には高校生全員に配布される。

論文教育の可能性

論文執筆過程で学んだ様々な経験が、確かな自信、自己肯定感として、大学や社会で確固たる意識を持って力強く生きることに繋がっていく。ある生徒は、あとがきに以下の言葉を記した。

「私達は、これから拡大するグローバル社会と人口が減少していく日本社会の双方に立脚しながら生きていかなければならない。将来、私が一人の女性として、それらの課題に立ち向かっていく時、この論文作成で得たものが基礎となってくれるのではないかと予感している。」

卒業論文は、社会に出て枝や葉を茂らせる前に根を張る、人としてしっかりとした土台を築く作業。学び合い、考え抜くことを通して、想定外のものを生み出し、発展させる土台作りができる。卒業論文執筆は大きな可能性を持つ教育だと言えるのではないか。

2018年3月10日（土）卒業論文発表会に、ぜひ御来校ください（詳細は2月頃本校ホームページに掲載）。



＊＊ 詳細は本文 <https://goo.gl/esGgF3> をご覧ください ＊＊

* 執筆者紹介：次ページ

執筆者紹介：高橋 育子

立教女学院中学校・高等学校
教諭（国語科） ARE 学習主任

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後
期課程単位取得退学



当財団では、第一線で活動される気鋭の執筆者に依頼し、時代を拓く提案、提言をニュースレターとして発信しています。ご意見をおよせください。

一般財団法人 未来を創る財団：abrighterfuture@theoutlook-foundation.org

<http://www.theoutlook-foundation.org>

© 2017 The Outlook Foundation. All rights reserved.